

技術センター長 1 年目

技術センター長 早川 慎二郎

山本陽介先生の後任として平成 29 年度から技術センター長に就任いたしました。石佐古技術統括をはじめ皆様とともに、センターの構成員および担当する業務について把握しつつあるところです。技術センターの職員が東広島および霞キャンパス以外でも、様々な場所で本学の研究・教育活動を支えていることを知り、改めてその重要性を認識している次第です。

平成 29 年度の研修会では、工作部門（2 件）、フィールド科学系部門、医学系部門から業務内容を紹介していただきました。工作部門にはこれまでも利用者として大変お世話になっており、現在の高い技術をどの様に継承していくかが重要であると感じました。また、竹原ステーションについては、関連した研究分野を知るとともに、利用者に対する細やかな配慮や工夫を聞き、嬉しい気持ちになる講演でした。遺伝子改変マウスの話は、私にとって一番難しい話で、生命系分野の研究で貢献するためには研究者との二人三脚が必要であると理解しました。共通機器部門の講演は体調不良により中止となりましたが、要旨には学会を主催する際に必要な WEB システムの構築についての取り組みが記述されており、とても有用であると感じました。また、工学研究科輸送・環境システム講座の田中義和先生からは、“研究内容の紹介～ものづくりプラザへの依頼工作に関連して～”、と題した基調講演をいただき、鋼材の疲労に関する研究で用いる試験片など具体的な事例が紹介されました。ものづくりプラザの貢献を頼もしく感じた次第です。

現在、全ての国立大学は運営費交付金を減額され、人員の削減は喫緊の課題であり、当センターも例外ではありません。今後も技術センターが本学の研究活動で大きく貢献し続けるためには、新しい技術を修得し、新しい業務も担う必要があると思われまます。労働時間を適正に保ちながら、新しい業務を担当するためには、既存の業務の見直しは避けて通ることができません。平成 30 年 1 月には監事との面談があり、センターの現状についての意見交換を行い、ものづくりプラザ（ガラス、機械加工室および薄片製作室）を見学していただきました。センターの重要性は認識しているので、将来像を描き、国に対しても訴求できる青写真を描くようにと、励ましていただいたと考えています。センター職員の業務をさらに理解し、個々のスキルアップを応援しながら、教員との連携・技術職員間の連携の強化を目指して、技術センターが担う役割を考えていきたいと思ひます。